

# 美馬の 魅力スポット

An attractive place in mima

美馬市内には、  
山あいに川岸に  
田園地帯に  
魅力的なスポットが  
まだまだあります。  
古代からの歴史や  
不思議が秘められた  
場所を訪ねます。



デ・レーヶは、明治6年（1873）に来日し、日本各地で河川の改修、砂防、築港の工事などを指導しました。この堰堤は、明治17年吉野川を調査したときに、支流から土砂が流出するのを防ぐため造られたもので、デ・レーヶが指導した砂防堰堤では最大級の規模といわれています。また、徳島県内で現存するデ・レーヶ指導の唯一の堰堤となりました。

「デ・レーヶ」という名前で呼ばれる堰堤は、脇町の大谷川に残されています。これは、オランダの土木工学の専門家ヨハネス・デ・レーヶの指導により築造されたものです。

## 1 デ・レーヶと 名付けられた堰堤

〔デ・レーヶ堰堤〕

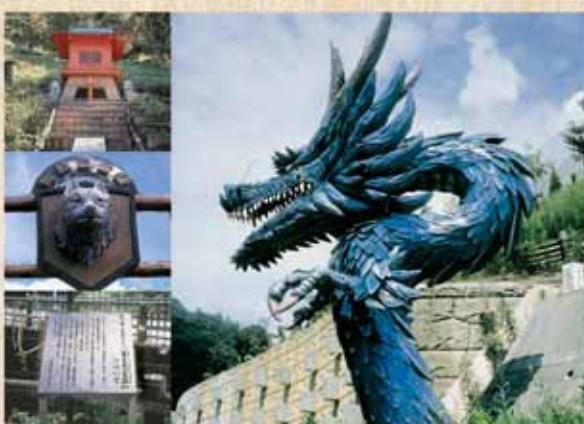
〔デ・レーヶ堰堤〕

## 2 日本創世の 女神をまつる

〔伊射奈美神社〕



古事記や日本書紀に日本の国土や神々を生んだ神として記されているイザナギ、イザナミ神。全国にイザナギを社名にする神社は幾つかありますが、イザナミを社名にする神社はわずかしかありません。この神社は、以前は吉野川に浮かぶ美馬町の中鳥というところにあり、千数百年もの間、度重なる洪水にも、ここだけが被害にあわなかつたと伝えられてきました。平安時代に編纂された「延喜式」によると、伊射奈美神社の名前があり、これが現在の伊射奈美神社ではないかとも言われています。神話時代の重要な鍵が隠されているかもしれません。



穴吹町はラツキーセブン（7）の場所。旧穴吹町の郵便番号777-777にちなんで、北斗七星の位置を型どり、名所旧跡の7カ所に平成7年から7年計画でミニ宮殿を建設しました。これを名付けて「ラツキー宮殿」と呼びます。

## 3 幸運の宮殿群

〔ラツキーギル殿〕

〔ラツキーギル殿〕

「天神ザクラ」の名があるヤマザクラがあり、その脇には「お大師さん」がまつられています。その近くの山中には、「世の中ザクラ」と呼ばれる樹高約30メートルというエドヒガンザクラがあります。この花は、その時々の景気によつて、開花状況が異なることから名付けられたと伝えられています。

4 世の中を占う桜

[世のサクニ]



死んだはずの幼帝

「剣山・平家の馬場」



185)に増し浦で亡くなられたとされ、三種の神器の一つである宝剣とともに海に沈んだことになっています。ところが、剣山周辺では、安徳天皇は無事にこの地に逃げ延びたと言い伝えられてきました。山頂近くの草原は「平家の馬場」と呼ばれ、安徳天皇が家来と共に再起を願つて、馬の訓練をしていた場所と伝えられています。

剪宇峠の大蛇

[峠の祠・ふれあい広場]



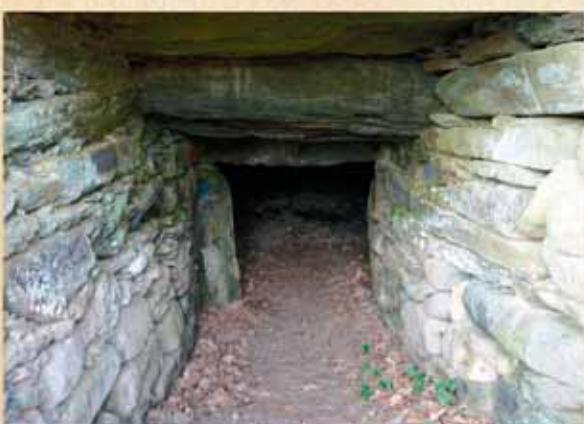
この塚穴には、その昔、法事や客があるときには、碗や皿を借りたという伝説が残り、家具の岩屋とも呼ばれていました。

2基の墓地で、東西に並び、それそれ「太鼓塚」「棚塚」といいます。東側に位置する太鼓塚は、四国最大級の全長13メートルの横穴式石室を埋葬施設とし、墳丘（ふんきゅう）の底径約35メートル、高さ約8メートル、徳島県でも屈指の大古墳です。西にある棚塚は、奥の壁が一枚岩でできていて、幅の広い石棚が作りつけてあります。

標高1955メートル、四国で2番目に高い「剣山」は、山岳信仰の歴史を刻む靈峰です。

伝説の塚穴

段の塚穴



ます。他にも目撃談が続き、数百人規模の搜索隊が組織されるなど「大蛇騒動」に発展しました。しかし、大蛇は発見されず、翌年、地元有志の手で大蛇を祭る祠が建てられました。ふれあい広場には、全長1.62メートルもある大蛇型ローラー滑り台があります。

穴吹町の剪定付近の杉林において、昭和48年(1973)5月、4人の男性が大蛇と遭遇したと伝えられています。「仲間の叫び声を聞いて振り返ると、大きなヘビが1メートルほどま首を持ち上げていた。胴体は、草むらから出ている部分だけでも